

普及活動情勢報告（令和 5 年 10 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

地域の農地を守っていこう ～第 2 回令和 5 年度地域計画の策定に向けた広域連絡会の開催～



地域計画広域連絡会の様子

9 月 21 日に、田野町ふれあいセンターにて市町村担当者 12 名、関係機関 6 名が出席し、「第 2 回令和 5 年度地域計画の策定に向けた広域連絡会」を開催しました。

管内モデル地区の奈半利町の取り組みや各市町村の現状や今後の計画などを共有しました。また、「県内の先進地では、座談会のファシリテーターはどんなことをしているのか」といった地域で策定を進めるための質問も出されていました。

農業改良普及課では、地域計画の取り組みを通して、将来の農業振興につながるよう支援していきます。

基本技術を徹底し収量アップを ～芸西出荷場ナス部会現地検討会、勉強会～



勉強会の様子

9 月 22 日、芸西出荷場ナス部会員 26 人が参加し、現地検討会と勉強会が開催されました。現地検討会では「PC お竜」の生育状況や今後の管理について活発な意見が出されました。また、勉強会では農業改良普及課から整枝方法の改善や冬期炭酸ガス高濃度施用による収益アップの事例、すすかび病対策（安芸版セット散布体系）について紹介しました。参加者からは「新たな防除体系に取り組みたい」、「PC お竜は、整枝方法など技術の見直しが必要」など意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も栽培管理や病虫害管理管に関する情報提供を継続し、収量・品質の向上を支援します。

ユズの本格的な出荷がはじまる～柚子部目慣らし会の開催～



家畜ふん堆肥のサンプルを確認するユズ生産者

10 月 5 日から 10 日にかけて、J A 安芸地区柚子部が令和 5 年産ユズの受入に係る目慣らし会を開催し、8 ヵ所で計生産者 429 人が参加しました。

目慣らし会では、酢玉や黄玉、冬至玉の出荷に向けて、受入れ基準等を確認しました。

農業改良普及課は、収穫前防除や秋肥施用、脚立の事故防止等を指導するとともに、家畜ふん堆肥を活用した収穫後の土づくりについて啓発しました。

参加者からは、「今年は着果が多く樹がこたえている」「最近有機物を施用していないので家畜ふん堆肥を使ってみようかな」といった声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も需要に応じた安定的な果実生産が行われるよう支援します。

地域を守る取り組みのきっかけづくり
～地域支援企画員に向けた集落営農の説明会～



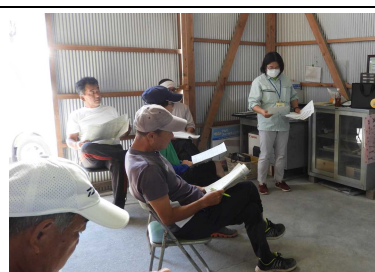
集落営農について説明を行う普及指導員

10月12日、安芸地域本部支援員連絡会で、地域本部11名、計画推進課2名を対象に、集落営農の説明会を行いました。

地域の若手農家から、地域支援企画員やJAに集落営農について相談があったことをきっかけに、農業改良普及課から提案し、このような場を設けました。当日は、集落営農の目的や取り組み内容などについて説明を行い、参加者からは「担当地域でも組織化を検討している」「実際に集落営農の話があった時に、振興センターに相談しやすくなった！」など、前向きな意見も聞かれました。

今回をスタート地点とし、地域支援企画員とも情報共有を行いながら、農業農村を支える仕組みづくりに取り組みます。

JGAP認証取得に向け準備中 ～安田ミネラル会～



要求内容を説明する普及指導員

令和5年10月19日、(株)安田ミネラル会は、ナス栽培におけるJGAP団体認証取得に向けた勉強会を開催し、会員11名が参加しました。農業改良普及課は、認証取得に向けた今後のスケジュールの確認とJGAPで求められる取り組みや必要書類等の説明を行いました。

参加した農家からは、「作業工程を確認したがリスク評価に時間がかかる」、「求められることに対応できるだろうか」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、挙げられた課題や不安を解消し、安田ミネラル会の令和6年の認証取得に向けて引き続き支援をしていきます。

労働力は足りていますか ～JA芸東ナス部会より～



真剣に話を聞く生産者

10月20日、JA高知県芸東ナス部会は室戸市羽根町の集出荷場で目慣らし会を開催し、生産者37名が参加しました。

農業改良普及課は、以前部会で調査した労働力に関するアンケートの結果を報告し、雇用の手段や効率化の事例を紹介しました。

部会では、現時点で不足している人、将来的に対応が必要な人もいることから、農福連携や作業の改善など事例紹介に興味を示していました。

室戸支所は、引き続き部会の労働力不足の解消に向けて支援します。